FX MONTHLY MARKET REPORT ／ NOVEMBER 2026

GBP / JPY　英ポンド円　月次レポート

前月振り返りと2026年11月の相場展望

発行日	対象期間	通貨ペア	発行頻度
November 5, 2026	10月実績 ／ 11月展望	GBP / JPY	Monthly

10月末レート（終値）

211.013

+1.09%　（10月月間騰落率）

10月高値	10月安値
211.982	207.581
BOE金利	**BOJ金利**
4.00%	1.25%

今月のハイライト

- 10月は**208.75円でスタートし、211.01円で引け、月間+1.09%**となった。月中は207.58〜211.98円のレンジで推移した
- **BOEは10月に会合がなく、政策金利は3.75%で継続**。英9月CPIは前年比3.5%に上昇したと報じられ、11/5のMPCでの利上げ観測が意識された
- **日銀は10/29-30に政策金利を1.25%で据え置き**（賛成8対反対1）。展望レポートでは基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示された
- BOEは11/5のMPCで政策金利を4.00%へ引き上げた（賛成8対反対1、2023年以来の利上げ）。10月中の利上げ観測がポンドの支援材料になった可能性がある

11月 基本シナリオ レンジ

207 – 215円

11/5にBOEが4.00%へ利上げ。次回はBOE 12/17、日銀12/17-18

英日政策金利差

2.75pp

BOE4.00% − BOJ1.25% ＝計算上の単純比較で2.75pp。11/5のBOE利上げにより0.25pp拡大

For Information Purposes Only

GBP / JPY

2026年10月　相場振り返り

10月末レート
211.013
▲ +1.09%

始値	高値	安値	月間騰落
208.748	**211.982**	**207.581**	**+1.09%**
10月最初の取引日	月中最高値	月中最安値	+2.265円

10月の相場動向

10月のポンド円は**208.75円でスタート**し、月中は**207.58〜211.98円**のレンジで推移した。BOEは10月に会合がなかったが、英9月CPIが前年比3.5%に上昇したと報じられ、市場では11/5のMPCでの利上げを見込む見方が強まったとされる。こうした観測がポンドの支援材料になった可能性がある。

日銀は10/29-30の会合で政策金利を1.25%で据え置いた（賛成8対反対1）。展望レポートでは基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示された。計算上の英日金利差（BOE3.75%－BOJ1.25%）は2.50ppと前月と同水準で、ポンド円は**211.01円で引け、月間+1.09%**となった。

主要イベントの影響

GB BOE / 10月は会合なし・11/5利上げ

- **10月はMPCの会合が開催されなかった**（9/17会合で3.75%を賛成6対反対3で据え置き）
- 英9月CPIは前年比3.5%に上昇したと報じられ、エネルギー価格の上昇が背景とされる
- 11/5のMPCでは政策金利を3.75%から4.00%へ引き上げ（賛成8対反対1、反対の1名は0.5%の利上げを主張）。次回会合は12/17

JP 日銀 10月29〜30日 据え置き

- **政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.25%で据え置き**（賛成8対反対1）。1名の委員は1.50%への利上げを提案したが否決された
- 展望レポートでは、基調的な物価上昇率が2%の物価安定の目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示され、2027年度の物価見通しが上方修正された
- 植田総裁は会見で12月会合での利上げの可能性を排除しなかったと報じられた。次回会合は12/17-18

10月の総括

10月はBOEの会合がない中、英国のインフレ率上昇を受けた利上げ観測がポンドを支えた可能性がある。日銀は政策金利を据え置き、計算上の英日金利差は2.50ppと前月と同水準にとどまった。ポンド円は月間+1.09%と上昇した。なお、BOEは11/5のMPCで4.00%への利上げを決定した。今後の利上げペースに関する示唆と、12月の日銀会合に向けた観測が、方向性を見極める材料となりうる。

GBP / JPY

2026年11月　相場展望

10月末終値
211.013
10月末時点

11月の注目ポイント

11/5のBOE会合（金融政策報告公表回）では、政策金利が3.75%から4.00%へ引き上げられた（賛成8対反対1）。2023年以来の利上げで、反対した1名は0.5%の利上げを主張した。BOEは声明で、インフレ率を中期的に2%の目標へ戻すため必要に応じて政策金利を調整するとの考えを示しており、今後の利上げペースが注目される。市場の織り込みが進んでいたとされる中、追加利上げ観測の強弱がポンドの方向性を見極める材料となりうる。次回のBOE会合は12/17、日銀会合は12/17-18で、12月の日銀の利上げ観測の変化も円相場に影響しやすい。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	英指標が底堅く、BOEの追加利上げ観測が強まりポンド高	212 – 218円
基本	50%	BOE利上げ後、英指標と日銀会合をにらんだレンジ推移	207 – 215円
弱気	25%	BOEの追加利上げ観測が後退、または日銀の12月利上げ観測が強まりポンド円下落	202 – 208円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
BOEの今後の利上げペース（次回12/17）	中	両方向	追加利上げ観測が強まれば、他の条件が一定であればポンド高要因。観測が後退すればポンド安要因となりうる
日銀の12月利上げ観測の強まり	中	円高	追加利上げ観測が強まれば英日金利差の縮小が意識され、ポンド円の下押し要因となりやすい
英インフレの高止まり	中	ポンド高	エネルギー高を背景にインフレが高止まりすれば、BOEの追加利上げ観測が強まる可能性
英景気・財政を巡る不透明感	中	ポンド安	景気減速や財政見通しへの懸念が強まれば、ポンド売りにつながりやすい

11月の見通し

基本シナリオは**207〜215円のレンジ**とみている。11/5のBOE利上げにより計算上の英日金利差（BOE4.00%－BOJ1.25%）は2.75ppに拡大し、下値を支える要因になりうる。今後は英国のインフレ・雇用指標を通じたBOEの追加利上げ観測と、日銀の12月会合に向けた観測が主な材料となりそうだ。

用語解説

BOE（イングランド銀行）
英国の中央銀行。11/5会合で政策金利を4.00%へ引き上げ（賛成8対反対1、2023年以来の利上げ）。次回は12/17。

日銀（BOJ）
日本銀行の略称。10/29-30会合で政策金利を1.25%で据え置き（賛成8対反対1）。次回は12/17-18。

政策金利 / 金利差
中央銀行が設定する基準金利。BOE4.00%とBOJ1.25%の差は計算上の単純比較で2.75pp（11/5時点。為替の方向を保証するものではない）。

MPC
BOEの金融政策委員会。9名の委員が投票で政策金利を決定する。

クロス円
米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。ポンド円はドル円とポンドドルの動きに影響を受けやすい。

キャリートレード / 巻き戻し
低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し金利差収益を狙う取引。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようにお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。